

町医者だより

平成22年01月号

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーTESCO2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

妊娠と喘息治療

患者さんから質問されることの一つに妊娠しても喘息治療、特に吸入ステロイドを継続しても安全かどうかということです。ここ数年以内に発表された論文を紹介いたします。

大原則は妊娠前からの喘息治療の継続です

妊娠中の喘息治療のガイドラインは米国のNational Asthma Education and Prevention Program (NAEPP) が出しておりその最新版(2004年)でも妊娠前からの治療を継続と妊娠中に新たに出現した喘息の積極的な治療を推奨しています。喘息のコントロールが悪いと早産、低体重児などの頻度が増すとの報告が多いためです。治療薬の選択枝は吸入ステロイド、気管支拡張剤、ロイコトリエン拮抗剤、テオフィリンなどですが、第一選択薬はやはり吸入ステロイドです。

吸入ステロイドの妊娠中の安全性

喘息治療薬の「安全性」は先天性奇形の発生頻度で調べられる事が多いのですが、2000年前後にパルミコート（ベネクト）の安全性がまず報告されたため (Obstet Gynecol 1999)、米国産科婦人科会議 (ACOG) の最新版(2008年)の妊婦の喘息治療のガイドラインでも吸入ステロイドといえばパルミコートを推奨しています。しかしながらあらためて検索するとフルタイド (Allergol Immunopathol 2007) やキュバル (J Allergy Clin Immunol 2009) も安全との報告があります。また吸入量は1000マイクロ以下ならば安全と報告されています。

気管支拡張剤の安全性

短時間作動型 (サルタノールやメプチンエア) と長時間作動型 (セレベント、アドエア、シムビコート) の2種類があります。2008年にThorax誌に発表された報告では両薬剤の安全性が確認されています。しかしながら同年Am J Epidemiol誌に発表された報告ではどちらの種類（シムビコート）の薬剤か不明ですが気管支拡張剤の使用で腹壁破裂という奇形の発生頻度が増えた、との報告があります。ちなみにNAEPPやACOGのガイドラインでは気管支拡張剤の使用を容認しています。

ロイコトリエン拮抗剤の安全性

シングレア、キプレス、アコレートの安全性を確認したとの報告が2007年のJ Allergy Clin Immunol誌にあります。

インターールの安全性

前述のThorax誌(2008年)にインターールで骨異常が増加する可能性が示されました。

喘息そのものが先天性奇形の頻度を増加させているようです

多くの報告が指摘していますが、喘息を有する無治療の母親から生まれるお子さんの先天性奇形の頻度は喘息のない母親から生まれる場合より若干高くその頻度は喘息の重症度に依存しているようですが、何が影響するのかわかりません。今後のより詳細な報告を期待します。